

「日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。(Since 2006)

目次	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ	1
➤ JRRN 会員寄稿記事	4
➤ JRRN 会員からのお知らせ& 冊子等の紹介	6

JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

今年も募集スタートします！「#桜のある水辺風景 2025」

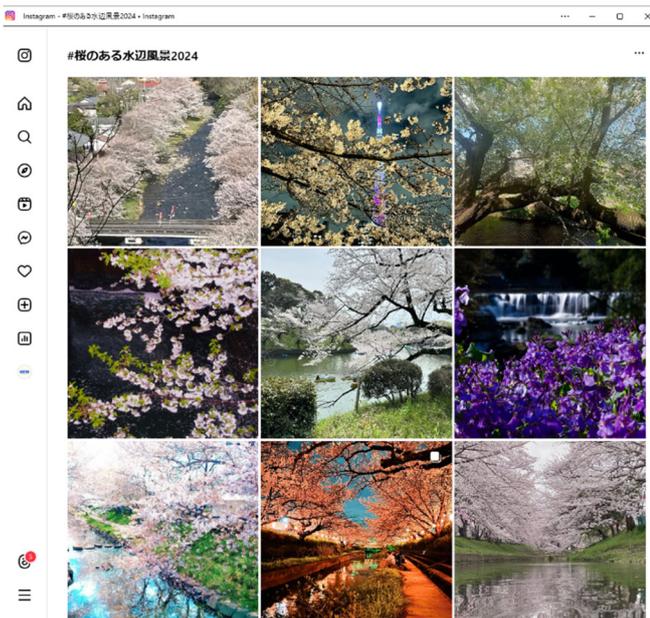
JRRN では、毎年、「桜のある水辺風景」の写真を募集しております。これを機会に皆さんが水辺の美しさを再発見し、さらに水辺と人々とのつながりについて考えるきっかけになれば嬉しいです。

[Instagram で手軽に投稿できます](#)

→ <https://www.instagram.com/jrrn01/>

「桜のある水辺風景 2025」の応募は3月から Instagram で受け付けます。JRRN の Instagram をフォローして、ハッシュタグ「#桜のある水辺風景 2025」をつけて投稿してください。応募方法の詳細は右記のチラシをご確認ください。

事務局内選考の結果、最優秀賞に選ばれた方には、ささやかながらプレゼントをご用意しております。



(JRRN Instagram より)

過去に撮影された写真も受け付けます。思い出の写真や、うまく撮れた写真に撮影時期やコメントをつけて投稿してください。カメラロールに眠ってる名作を投稿するなら今がチャンスです。

なお、選ばれた写真は JRRN の Instagram やウェブサイトにて掲載させていただきます。あなたの作品をたくさんの人に見てもらいませんか？

(JRRN 事務局・後藤千佳子)

桜のある水辺風景

二〇二五 写真大募集

応募締切
5/12(月)

●応募期間：2025年3月3日（月）～2025年5月12日（月）

●応募方法

- ①Instagramを公開設定
- ②「jrrn01」をフォロー
- ③「#桜のある水辺風景2025」をつけて投稿

※応募についての詳細は

Instagram #桜のある水辺風景2025 にてご確認ください

問合せ：日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)

事務局 担当：阿部・後藤 (Eメール: info@a-rr.net)

主催：日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)応募先・問合せ先: info@a-rr.net

JRRN 事務局からのお知らせ (2) JRRN Activity Report

国際交流活動 – 2025 年 ARRN 年次活動予告 (第 21 回水辺流域再生国際フォーラム&第 19 回運営会議)

JRRN が所属するアジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN) では、ARRN メンバー間の河川再生に関わる最新情報の交流を目的に「水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム」を 2004 年より毎年開催し、合わせて ARRN の理事会に相当する「ARRN 運営会議」を 2006 年より開催しています。

(2020 年は新型コロナ感染症拡大のため中止)

※これまでの開催概要や講演内容等は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/public/category/arrn-forum>

21 回目となる本年 (2025 年) の ARRN 国際フォーラムは、オーストラリア・ブリスベンで 9 月 8 日～10 日に開催される『第 26 回 国際河川シンポジウム (26th International River Symposium)』の分科会として開催する予定です。

第 26 回 国際河川シンポジウムは、「河川の変革：気候変動への強靱化に向けた解決策の加速 “River Revolution: Accelerating Solutions for Climate Resilience, ”」をテーマに、オーストラリア国内及び諸外国の河川管理者、政策立案者、研究者、コンサルタント、学生、NGO、コミュニティ組織、企業関係者等が一堂に会し、相互の経験を共有することを目的に開催されます。

海外の河川再生に向けた最新の取組みにご関心のある方は参加されてみては如何でしょうか？

(JRRN 事務局・和田彰)

ARRN 国際フォーラムの開催実績 (2005 年～)

回	開催年月	開催地	備考・連携行事
1	2005.1	東京	ARRN 設立前準備会
2	2005.10	東京	ARRN 設立前準備会
3	2006.11	東京	ARRN 設立式典併催
4	2007.11	東京	
5	2008.11	北京	第 4 回 APHW
6	2009.9	ソウル	第 5 回 KICT ワークショップ*
7	2010.9	ソウル	ISE2010
8	2011.11	東京	
9	2012.11	北京	
10	2013.9	成都	第 35 回 IAHR 大会
11	2014.10	ウィーン	第 5 回欧州河川再生会議
12	2015.4	慶州	第 7 回世界水フォーラム
13	2016.8	仁川	HIC2016
14	2017.8	マレーシア	第 37 回 IAHR 世界会議
15	2018.8	東京	第 12 回生態水理学国際シンポ*
16	2019.10	ブリスベン	第 22 回国際河川シンポジウム
17	2021.11	(オンライン)	オンライン形式での開催
18	2022.12	(オンライン)	オンライン形式での開催
19	2023.11	十堰	
20	2024.9	北京	第 3 回アジア国際水週間
21	2025.9	ブリスベン	第 26 回国際河川シンポジウム



■ 第 26 回 国際河川シンポジウムウェブサイト: <https://www.riverfoundation.org.au/international-river-symposium/>

2月



あの日のあの川 リレー日記 ～第78話～



あの日のあの川
リレーDiary

みなさんはどの川でどんなことをした記憶がありますか？ 幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

第78話主人公 藤井悠羽

(筑波大学大学院 システム情報学研究科 構造エネルギー工学専攻 白川(直)研究室『川と人』ゼミ)

(■川ガール・□川系男子)

(出身地を流れる川：神奈川県早淵川)

「新鮮な川との関わり方」

いつのこと？： 大学生

どこの川？： 依田川

佐々木さんからバトンを受け取りました。筑波大学白川研究室「川と人」ゼミの藤井悠羽です。

最近のお話にはなってしまいますが、私は、ゼミの方々と訪れた「信州爆水 RUN」のお話をさせていただきたいと思います。なぜ私がこの経験を紹介させていただこうかと思ったか、それは私にとって今までに無い、川との関わり方だったからです。爆水RUNは、「川の中を8km走る」という、云わばマラソン大会のようなものでした。

幼少期、川辺でキャンプをしたり、遊んだり、という記憶はありましたし、元々川と人ゼミに入ろうと思った原点も、幼いころから自然に触れる機会が多かったことだと思います。しかし、私にとって、川の中を走る、という発想は全くありませんでした。

そして、参加を決めた後も私は、川の中を走ることがいかに大変かを甘く見積もっている部分がありました。ところが実際に走ってみると、石の上はコケで滑りますし、段差も多いですし、おまけに川の流れに対して走る時の抵抗の大きさは私の体力を大きく削るものでした。(ちなみに、一度コース内で流されそうになった時、周りの方が助けてくださいました、ありがたい限りです、)ただ、大変だった一方、参加者の皆さんの楽しみ方はそれぞれで、ご夫婦で参加されている方、うきわをもって参加されている方(ゼミの先輩も持って行かれていました)、家族で参加されている方など様々な方がいらっしゃり、新しい川への関わり方を知るとともに、多くの楽しみ方を学ぶことができました。

私がこの大会で最も楽しかった瞬間は、レース後に川に行って、ぷかぷかと浮いて遊んでいた時です。走り切った達成感と冷たい川の水が本当に気持ちよかったです。次も機会があれば是非参加したいと思っています。

今回のリレー日記では、爆睡 RUN を取り上げましたが、私は川と人ゼミに入ったことで、自身が思っていたよりもずっと多くの「川の顔」を知ることができています。それは、先輩方や同期(これからは後輩の方も)、そして先生が様々な研究やお話をしてくださるからです。自然と関わる子供心と常に学ぶ気持ちを忘れずに、これからもっと多くの知識、経験を得られるよう、頑張ります。そして、私の研究を聞いて、誰かに新しい川の側面を知ってもらえることを祈ります。

(次は伊藤さんにバトンを託します)

JRRN 会員からのお知らせ (2025年1月末まで提供分) Information from member

【JRRN 会員からの提供情報】

第 216 回 河川文化を語る会「半田運河と共に歩んだミツカンの考える水の文化とは」&「川から眺めた英国運河の風景と文化」(3/9 開催)

第 216 回「河川文化を語る会」を 3 月 9 日 (日) に愛知県にて開催いたします。
 今回のプログラムは、『Ⅰ.半田運河と共に歩んだミツカンの考える水の文化とは～やがて、いのちが変わるもの。』と『Ⅱ.川から眺めた英国運河の風景と文化』の 2 部構成です。

講演要旨及び講師プロフィールにつきましては、河川文化を語る会 HP よりご覧ください。
 皆様のご参加をお待ちしております。

- ◆開催日：2025年3月9日(日) 14:00～16:30
- ◆会場：ウイंकあいち (〒450-0002 愛知県名古屋市中村区)
- ◆募集人数：80名(先着順)
- ◆参加費：無料
- ◆申込締切：定員に達し次第締め切らせていただきます。
- ◆申込み/問い合わせ：公益社団法人 日本河川協会
 URL：<https://www.japanriver.or.jp/>
- ◆詳細は以下参照

https://www.japanriver.or.jp/kataru/kataru_no216.htm



冊子等の紹介 Publications

はじめての魚の居場所づくり vol.2



この冊子は、小さな自然再生のハンドブックとして、魚にとって大切な場所について理解し、魚の居場所づくりに取り組む際のヒントを分かりやすくとりまとめたものです。

全国の水辺の小さな自然再生の担い手の皆様にとって更なる意欲と活力につながり、地域に根差した川づくりの更なる推進に寄与すれば幸いです。

→ダウンロードページはこちらから

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/375>

- 制作：
 - 滋賀県立大学大学院
 (泉野珠穂・安田希亜良・瀧健太郎)
 - 日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)
- 発行：
 - 滋賀県流域政策局、
 - 滋賀県立大学大学院流域政策・計画学研究室
 - 公益財団法人リバーフロント研究所
- 発行年月：2024年8月

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局

〒104-0033 東京都中央区新川 1 丁目 17 番 24 号 NMF 茅場町ビル 7 階 (公財) リバーフロント研究所 内
 Tel:03-6228-3861 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net
 URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>